

2021年08月31日(火)【外為Lab】松田哲

タイトル:【ジャクソンホールを終えて、夏休み相場明け】

昨日(8月30日)は、8月最終週の月曜日なので、レイト・サマー・ホリデー(サマー・バンク・ホリデーとも言う)だった。

レイト・サマー・ホリデーは、ロンドン市場が休場となる。

そして、レイト・サマー・ホリデーが明けると、「夏休み相場」が終了する。

つまり、今年(2021年)は、今日(8月31日)が「夏休み相場明け」である。

今日(8月31日)から、世界中の市場参加者が休暇明けで戻っており、マーケット(外国為替市場)を眺めていることになる。

ただし、気分的には、どことなく「夏休み相場」の雰囲気が残っている。

今週末の9月3日(金)には、米国雇用統計の発表があるので、その日までを「夏休み相場」とする市場参加者も多いので、そんな雰囲気が残るのだろう。

しかしながら、今日(8月31日)から、マーケット(外国為替市場)はフルスペックなのだ。

気を抜かずに、真面目に、マーケット(外国為替市場)に臨んだ方が良く、と自戒している。

+++++

先週末(8月27日)に開催されたジャクソンホール会議では、パウエルFRB議長の講演が注目されていた。

パウエルFRB議長は、テーパリング(量的緩和政策の縮小)を年内に開始する方針を、改めて示しました。

しかし、テーパリング開始の具体的な時期は示しておらず、新型コロナウイルスの感染が、再び、急拡大していることにも言及し、不透明感が強いことにも触れている。

その結果、テーパリングに関しての強いメッセージとは言えない印象となった。

別な言い方をすれば、市場参加者にとって、想定内でのテーパリングに関する示唆であり、インパクトの無い講演内容だった。

マーケット（外国為替市場）は、大過なく、聞き流した、といったところだ。

+++++

パウエルFRB議長の発言内容から判断するのならば、今後の経済次第と言えるのだから、今週末の9月3日（金）の米国雇用統計は、最大限に注目に値することになる。

まずは、米国雇用統計に集中すべきだろう。

+++++

（2021年08月31日東京時間14：10記述）